

## 人気高まる木頭ゆず



# 青果の香り・品質好評

徳島からの輸出産品のうち、近年、海外で人気が高まっているのがユズだ。特にユズが栽培され、特にユズが栽培され、てこなかったヨーロッパでは、オレンジやグレープフルーツといった主要なかんきつ類とは違った香りが、高級レストランのシェフを中心に注目を集めている。中でも期待されるのが

青果だ。これまでユズの輸出は果汁やボン酢などの加工品ばかり。青果は欧州連合（EU）が、残留農薬やミカンバエなどの病害虫について厳格な検疫基準を設けているため見送られてきた。

そんな中、加工品が出るにつれて「青果もほしい」との声がEUの食品会社などから寄せられるようになり、JAアグリ

あなんと県は青果の輸出に向けた取り組みに着手。検疫クリアに向けた栽培技術を生産者に助言指導し、那賀町の専用果樹園で特別栽培された木頭ゆずの一部を2014年10月19日から5日間、収穫されたユズを品定めするフランスのランス市場のジャン・シエムニさんらに那賀町木頭

パリで開かれた食の国際総合見本市「シアル」に初出品した。

訪れたバイヤーには好評を呼び、フランスのランス市場で仲卸を担当するジャン・シエムニさん（44）は11月25、26両日、木頭を訪問。出荷場で箱詰めされるユズを見学し「香り高く、素晴らしい品質だ」と約240キの購入を決めた。

JAアグリあなんとの中西庄次郎組合長は「木頭ゆずは傷がなく形も良い。品質管理をセールスポイントに継続的に取引できるよう期待している」と話す。JAアグリあなんと県は、ユズの青果がEUで浸透することで、加工品の売り上げ増や、ミカンやスタチなど他のかんきつ類の青果の輸出を目指す。